

二〇一五年度国文学会彙報

二〇一五年度国文学会活動状況

△新入生歓迎会▽ 学生部会主催

二〇一五年四月五日 プライントンホテル

△国文学会総会・研究発表会・講演会▽

二〇一五年六月二一日 良心館三階三〇五教室

・総会

・研究発表会

過去との往還／死者との交歓

——吉井勇「虎落笛」論——

本学大学院博士課程前期課程 松井佑生

平安期継子譚の展開

——中国継子譚との関わり——

本学大学院博士課程後期課程 森あかね

森鷗外『高瀬舟』を中学三年生と共に読む

—— 本日の幸せとは ——

財産観・安楽死の問題を現代と結びつけて考える

同志社中学校・高等学校教諭 矢淵多佳子

・講演会 同志社大学文化学会共催

富士谷成章の和歌の時代

本学教授 石井久雄

△国文学会研究発表会▽

二〇一五年二月六日 寒梅館二階二〇三教室

・研究発表会

『源氏物語』夕顔巻における和歌の摂取

—— 「白露の光」をめぐる ——

本学大学院博士課程前期課程 廣瀬 薫

合戦場面にみる『保元物語』の編集意識

本学大学院博士課程後期課程 城阪早紀

花田清輝「群猿図」における俳諧の要素

本学大学院博士課程前期課程 加藤大生

近世後期長崎の歌壇と画壇

本学助教 吉良史明

△国文遊歩▽ 学生部会主催

第一回 二〇一五年六月二八日

奈良公園周辺

第二回 二〇一五年十一月二二日

宇治

△国文合宿▽ 学生部会主催

二〇一五年八月二八日・二九日

同志社びわこリトリートセンター

指示語「コ」「ソ」の文章論的研究

張子如

〈ゼミ相談会〉 学生会主催

——小説における機能を中心に——

二〇一五年二月二〇日・二三日

〈同志社国文学〉

二〇一五年度修士論文題目

第八三号 二〇一五年二月二〇日発行

『源氏物語』「夕顔」巻の「露の光」の表現

廣瀬 薫

収載論文七編 資料紹介一編

——引歌としての可能性の一試論——

第八四号 〈石井久雄教授退職記念号〉

謡曲《浮舟》考

加藤 森平

二〇一六年三月二〇日発行

——物語の構成意識と浮舟の救済——

徳富蘆花・社員作家の方法

〈国文学会会報〉

——「夏の月」「灰燼」「除夜物語」を視座として——

第四三号 二〇一六年三月二〇日発行

平石 岳

岡本綺堂初期作品に通底する〈新しさ〉

二〇一五年度博士論文題目

植芝 千景

——素材との比較を通して——

中島敦と〈南洋〉

谷崎潤一郎文学と検閲制度

——同時代〈南洋〉表象とテキスト生成過程から——

——明治末期から大正一〇年までを中心に——

杉岡 歩美

呉 慧敏

日本近代における〈デカダンス〉の文学史的研究

昭和二十年代における吉井勇の短編小説をめぐる

——明治三〇年代―昭和二〇年代、〈否定性〉の系譜学——

松井 佑生

福岡 弘彬

二〇一五年度卒業論文題目

天浮橋の形状と機能について

中山実咲

『古事記』天安河のウケヒについての一考察

稲垣桃子

——クガタチとの比較を通じて——

『朝川渡る』の諸問題について

片岡藍

『万葉集』巻二「石見相聞歌」の構成と推敲過程

土田峻太

持統天皇作一六〇歌・二六一歌について

北村綾香

山部赤人春雑歌四首から見る万葉集における女性仮託

斉藤綾子

「老師の花」考

——『万葉集』巻十一・二四八〇——

湯本美紀

『竹取物語』における「光」の意味するもの

赤井千秋

『落窪物語』と『薔花紅蓮伝』における父と家庭の形態

金東輝

『枕草子』における蟻通明神伝説の研究

—— 難題を中心に ——

小山楓

登場人物からみる『源氏物語』の紅

上茶谷一美

美的語彙「きよらなり」「なまめかし」の英訳

—— 英訳における光源氏の形容を中心に ——

西野史晃

桐の表現

—— 『源氏物語』における位相 ——

丹羽雄一

『源氏物語』冷泉帝の罪

『源氏物語』における葵上の死の役割

呼称「大殿」にみる正妻としての葵の上

『源氏物語』六条御息所の死霊が果たした役割

後藤にち茄
井上知奈美
竹内悠加

『源氏物語』夕霧の恋

—— 『伊勢物語』「筒井筒」の影響 ——

茂木有希
滝本百合子

『源氏物語』花散里考

—— なぜ花散里は光源氏にとって重要な人物として描かれるのか ——

寺西未来

『源氏物語』における「形代」としての浮舟

『源氏物語』における「桜」

『源氏物語』紫の上の服飾

『紫式部集』「数ならぬ心」の解釈

家門春佳
河合風悟

財津亜実

山本暁斗

『今昔物語集』巻二十七の「怪異」の考察

南部 早紀

小野小町と和泉式部について
白拍子静の人物像

貞村 江里奈
寺澤 里歩

『今昔物語集』における動物への転生譚

石田 尚之

——常盤、祇王との比較から——
中世説話の笛
中世の亀について

藤本 佳乃
日根野 佑紀

『梁塵秘抄』法文歌における表現の特異性について

達可 健

昔話「鬼の子小綱」の変遷
——文献との関係を視野に入れて——

藤卷 壮史

覚一本『平家物語』における「敦盛最期」

結石 雅世

『諸国百物語』の特性
——所収話の分類から——

山口 隼

——「一所」に注目して——

五山文学における桃

小野崎 可藍

謡曲「狸々」「邯鄲」「菊慈童」からみる不老不死と仙界

赤松 貴美

『日本永代蔵』巻四の一の挿絵考
——「梟」に着目して——

西山 麻里

『新蔵人』絵巻の主張

松崎 みなみ

大阪における元禄歌舞伎の中のやつしの展開
心中二枚絵草紙のドラマ性

佐藤 真衣

逸翁美術館蔵『大江山絵詞』の思想

八木 智生

鬼と陰陽師

中田 朱音

——酒吞童子譚の占いに關する一考察——

『諸葛孔明鼎軍談』の本文から
引用と転用に着目して——

野村 美月

『弥兵衛鼠』の祝儀性と擬人化表現

平田 明日香

『かざしの姫君』作品研究

道岡 祐美子

江戸期「桃太郎」絵本作品の内容の変遷
歌舞伎における動物変身譚

芥川 海人

『田植草紙』における鹿

宮田 奈津美

『木幡狐』きしゆ御前の魅力

西邑 あかり

——狐伝承に注目して——

伊藤 萌

身替りの趣向がもたらす効果

——身替り論の再検討——

松本彩花

判じ絵の文芸性

——表現形態の違いからみる読者への効果——

河端真由

『本朝水滸伝』の基軸となる思想について

——「中央」対「辺境」説の検証から——

岡田藍沙

大衆娯楽としての妖怪文化

——『画図百鬼夜行』から考える——

渋谷朋浩

「蛇性の姪」における真女子像の再考

「女性観」と「男性観」

近松心中物の方法について

お七の変相

——浮世草子・実録などの場合——

「お光」から考える「お染久松もの」

——『新版歌祭文』のお光の成立から——

九代目市川团十郎「活歴もの」の検討

舞踊における六代目尾上菊五郎の芸風

坂本祐里子

春増理沙

前田栞

『野菊の墓』論

——農村の風景と思想——

加藤智丈

田山花袋『蒲団』による新作技法と

時代が生んだ「自意識」の分裂

——アンビバレントな心理描写を中心に——

森鷗外「電車の窓」における男のまなざしについて

——少年描写の意義について——

谷崎潤一郎「小さな王国」論

芥川龍之介「葱」論

——お君さんの「嬉しさうな微笑」について——

——文化的要素を中心に——

稲垣足穂「星を造る人」に描かれた神戸

「神神の微笑」に表れる二つの要素

——文化融合と他文化理解——

山本有三「波」論

——教育的要素を中心に——

江戸川乱歩「虫」に見られる恐怖と性癖

堀辰雄『聖家族』『風立ちぬ』における芥川龍之介の影響

溝口利奈

樫地大

山端健太

「寛博士の廃類」論

井上大佑

—— 笑いの観点から ——

尾崎翠が描く「非正常心理の世界」

新岡真樹子

—— 「歩行」「地下室アントンの一夜」を中心に ——

新美南吉

脱獄囚は牢屋で目覚める

中野葉広

—— 夢野久作『氷の涯』における信頼

できない語り手による一人称書簡体

小説の物語喪失と読者によるその創造、或いは想像について ——

宮沢賢治『グスコープドリの伝記』における死の選択

塩田有佳子

宮沢賢治と「よだかの星」論

林 芯如

宮沢賢治『銀河鉄道の夜』の「実験」について

武田凜賢

「夕映少女」を「見る」

和田幸大

太宰治「皮膚と心」における「私」の在り方

小濱 舞

四つの観点からみる『女生徒』の考察とテーマ

徳永保希

内田百閒『柳検校の小閑』

中 惠璃子

—— 検校が「残月」を教えない理由 ——

太宰治「新郎」論

上 田 源

—— 擬装される〈新しさ〉 ——

新美南吉 近代的〈人間〉像のあらわれ

—— 「手袋を買ひに」の「人間」とは何か ——

竹内勇介

「聴雨」に見る織田作之助の挑戦

依光真治

安部公房「天使」論

松 内 陸

—— 〈天使化〉の解明を中心に ——

安部公房『けものたちは故郷をめざす』論

潘 媛

—— 故郷をめぐる ——

安部公房とアヴァンギャルド芸術としての

野 田 雄 大

シュールレアリスム

—— 『砂の女』を中心に ——

幸田文「おとうと」論

南 雲 理 歌

—— 体験の小説化 ——

松本清張「賞」

—— 柏谷侃陸のモデルと「賞」そのものについて ——

松 尾 理 紗

井上靖「楼蘭」論

—— 史実と小説を比較して ——

桐畑彩音

開高健「裸の王様」、児童画を主題とする意味

中川恵里加

井伏鱒二「木靴の山」に見られるユーモアの正体

竹内花織

森茉莉の「美少年もの」

—— 空想的空間で恋愛する美少年と青年 ——

植木さくら

非推理小説としての『虚無への供物』論

佐々木光佑

「めづらしい人」にみる老いの孤独

林麗娜

三島由紀夫『英霊の聲』論

後藤和也

—— 神道天行居と修羅能を視座として ——

宮本輝「螢川」論

下門雄太

—— 二つの螢に込められた思い ——

澁澤龍彦「鳥と少女」にみるリミックス

江尻成治

—— 視線を通じて ——

筒井康隆『虚航船団』論

足立挑

—— 過去作品から見る虚航船団の分析 ——

「親指Pの修行時代」が志向する理想の関係性

大西実

サリンジャー作品における村上春樹の翻訳の特徴

小山知子

安房直子「熊の火」に描かれた現実

—— 昔話の話型と人物設定に目を向けて ——

中西彩葉

お伽草子の特徴語をめぐって

青木達也

「ユメ」「ユメユメ」の語史

矢萩薫子

新語「口溶け」の展開

安田翔太

「星の王子さま」邦訳本の文体比較

大松真梨子

「おもむろ」の語史

滝健太郎

江國香織の文体

—— 児童文学的な特徴 ——

—— 毎日・朝日・読売三紙の野球記事の文体差 ——

「積極性」を表す語彙の意味分析

国内外菓子メーカーにおけるネーミングの比較

沖繩出身歌手の歌詩分析

漫画『ONE PIECE』のオノマトペ

多賀子竜
清水美貴
中村有希
中川まんな
一色真実

川上稔著『境界線上のホライゾン』における役割語

—— 典型例とずらしの検証 ——

石川 滯

テレビアニメ「機動戦士ガンダム」シリーズ
に登場する機動兵器の命名の分析

山崎 茜音

「姑息」の語誌

針生 直也

漫画「ちびまる子ちゃん」の漢字について

工口 千賀子

歌唱における母音の分布

青山 周平

新聞の謝罪に関する記事における語彙と表現

津守 智文

—— テキストマイニングの観点から ——